

巻頭言／法人経営の根幹揺るがす税制改革 — 2

5 法人が防災協定を締結 ————— 3

保育海外視察研修・オーストラリアでホームステイ — 3

ワイド 人材育成 ————— 4~5

27年度新規採用者内定式(高齢者)

先輩からのメッセージ

3 法人合同研修(保育)

地域交流 ————— 6~7

歳末助け合いイベントに参加 千里丘愛育園

地域福祉フェア 高槻けやきの郷

アナウンサーが絵本の読み聞かせ 第二愛育園 ————— 6

サポートハウスいわと開設1年半を振り返って ————— 7

トピックス ————— 8



社会福祉法人 成光苑

2015  
新年号

## セラピードッグが来園 着せ替えゲームなど犬と仲良しに

千里丘愛育園に26年10月24日、NPO法人日本レスキュー協会からレスキュー犬・介助犬が遊びに来てくれ、愛育会館のホールで4歳児さくらぐみの園児と触れ合い遊びを楽しみました。

大きな犬に最初は怖がっていた子どもの姿も見られましたが、犬を撫でたりして触れあっているうちに慣れてきました。子どもたちは着せ替えゲームと一緒に着替えの手伝いをしたり、フープくぐりのフープを持ったりして犬と仲良しに。最後には優しい犬たちが大好きになり、子どもたちの顔いっぱい笑顔が広がりました。  
～千里丘愛育園～



## 京都共済会バレー大会に出場 成光苑京都「和顔」「愛語」の2チーム



成光苑京都職員親睦会では昨年11月15日に行われた京都共済会バレーボール大会に出場しました。

バレー好きの職員が同好会を作ったばかり。参加者が約20名に増えたため、成光苑のハンドブック「和顔愛語」より「seikouen和顔」、「seikouen愛語」の2チームを編成。「愛語」は1勝1敗で予選敗退、「和顔」は決勝トーナメントに進み、1回戦で敗退したものの敢闘賞を受賞しました。

## 民間共済会ソフトボール大会 戦力アップで善戦 大阪「チーム成光苑」

民間共済会ソフトボール大会が26年10月30日、大阪・舞洲で開かれ、大阪地区「チーム成光苑」が参加しました。

今年は愛育園の保育士を含むフレッシュな部員も加わり戦力アップ、初優勝への期待が高まっていた。予選は攻守ともに絶好調で連勝突破しましたが、決勝トーナメントは最強シードチームの壁に阻まれ、悲願の監督胴上げは果たせませんでした。これからも楽しくをモットーに、チーム一丸となってチャレンジしたいと思っています。



## 勤労統計調査に協力 厚生労働大臣表彰

せつ桜苑はこのほど、平成25年度毎月勤労統計調査の指定事業所として、調査に適切に協力したことに対し、厚生労働大臣から表彰されました。

毎月勤労統計調査は賃金、労働時間及び雇用の実態を明らかにすることを目的とする調査で、厚生相から事業所として指定を受け、24年1月から27年1月までの調査報告を行っています。

今回の表彰を糧に、これからも地道に頑張っていきたいと思っています。  
～せつ桜苑～

### 〔法人理念〕

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

### 〔サービス目標〕

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

### 〔老人施設経営方針〕

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する

### 〔愛育園経営方針〕

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2015年1月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)

〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7

TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551

URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

### ★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。



# 法人経営の根幹揺るがす税制改革

理事長 高岡 國士

皆様におかれましては新春を健やかに迎えのことと存じます。日ごろから社会福祉法人成光苑の事業の推進に多大なご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

## 一層の変化を求められた1年

昨年末は、消費税の増税延期について国民に信を問うため衆議院解散総選挙が行われ、結果として自公が3分の2議席を維持し、安倍政権の圧勝で終わりました。この結果、アベノミクスとしてこれまで議論されてきた成長産業育成のための構造改革、さらなる地方分権となる地方創生が進められると思われまます。

昨年の福祉を取り巻く状況は、まさに激動の時代となりました。少子高齢化の進行に対応できる持続可能な制度の構築、社会保障と税の一体改革における給付の効率化・重点化、社会保障財源としての消費税の導入と部延期によるつなぎ財源の確保などが挙げられます。

特に社会福祉法人制度については規制改革会議やマスコミからの厳しい批判があり、法人のガバナンスや評議員会の設置、経営の透明性、地域公益実践・義務化といった制度の見直しが指摘され、課税問題も含め、社会福祉法人を取り巻く環境は、これまで以上に大きな変化を求められる一年となりました。

## 非課税堅持をめざし積極的に活動

アベノミクスの大きな柱である税制改革では、社会福祉法人への課税が大きな焦点となっており、今年度は見送ら

れましたが、平成二十八年以降、非常に厳しい状況になるといわれています。社会福祉法人は、公の支配や利益の分配、法人設立時の設立寄付者の持分権は認められず、解散時の残余財産も最終的には国庫に帰属するなど厳しい規制のもとで活動してきました。そういった経緯も含め、課税の対象となった場合には固定資産税が発生し、法人経営の根幹を揺るがすことにもなります。今後も非課税を堅持するためには、われわれ社会福祉法人が、制度の狭間にある課題や地域の状況に即した活動などに積極的に取り組むことが必要不可欠です。

## 新たな障害福祉サービスの事業所開設を検討

成光苑におきましても、これまで以上に地域の福祉ニーズに対応するための新たな活動の一つとして、従来の介護保険事業と保育事業に加え、増加傾向にあるといわれている発達障害などの方々を支援するため、新たに障害福祉サービスの事業所開設に向け検討を始めております。

また、地域子育て支援事業についても、拠点に留まらず、アウトリーチすることができると期待されています。本来事業の延長線上にある事業の充実とセーフティネットの機能を果たすための活動を展開したいと考えております。

今年も社会福祉法人にとっては厳しい一年になることが予測されますが、職員が一丸となり、われわれの使命を果たすことができるよう精進してまいりますので、今後も変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

初春のお慶びを  
申し上げます  
本年もよろしく  
お願い申し上げます

## 最近の出来事

2014年10月~12月

- 社会保険審議会福祉部会
  - ・社会福祉法人の経営組織のあり方についての見直し (理事会・評議員会・監事の役割等)
  - ・社会福祉法人の内部留保の考え方の整理
  - ・公益性を担保する財務規律の検討
    - ①適正かつ公正な支出管理
    - ②余裕財産の明確化
    - ③福祉サービス・地域公益活動への再投下
  - ・地域公益活動の定義と義務化
  - ・行政の関与のあり方及び外部監査の必置についての検討
- 人材確保
  - ・景気回復による有効求人倍率の上昇
  - ・福祉労働者の需要の増加
  - ・介護福祉士資格取得方法見直しに向けた検討
  - ・外国人労働者への技能実習制度の見直し

- ・労働条件や処遇改善等、魅力ある職場づくり (キャリアパス)
- 生活困窮者支援
  - ・平成27年4月生活困窮者自立支援法施行に向けた最終検討
- 介護
  - ・介護報酬改定に向けて在宅関係の報酬・基準等について議論
  - 経営実態調査に基づいた改定の議論
  - 1月中下旬を目途に介護報酬改定案が提出される予定
- 児童
  - ・新制度への移行に向けた消費税増税延期による財源確保の検討
  - ・「地域限定保育士(仮称)」の創設提案
- 障害
  - ・障害福祉サービス等報酬改定の検討



## 5法人防災協定締結式

【災害時にあける5法人相互の支援協定】  
平成26年11月12日

## せつつ桜苑も福祉避難所に指定 摂津市と協定を結ぶ

せつつ桜苑は昨年12月17日、摂津市との間で「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を結び調印式が行われました。同市内の他の6施設とともに締結したものです。成光苑では先に吹田竜ヶ池ホームと吹田市が交わした福祉避難所協定に続くもので、災害に見舞われた際、要援護者を受け入れる役割を果たすことになります。

## 東日本大震災視察研修

東日本大震災視察研修(認定特定非営利法人「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーボード」主催)が26年10月5日に実施され、成光苑からライフステージ 舞夢の上野由香子施設長と山本の2名が参加しました。当日は岩手県の陸前高田、大船渡、釜石など東日本大震災で甚大な被害を受けた市町村の復興状態や仮設住宅、災害支援拠点施設などの現状説明を受け、現地を見学しました。大震災から3年半、被災地から遠い地方で生活している私たちは記憶も薄れつつあり、「もう復興しただろう」と思いますが、現実はいまだに厳しいものでした。大津波を想定した大規模な宅地造成は未だ完成せず、仮設住宅には社会的弱者が取り残されておられます。一方で災害支援拠点施設

## 他人事ではない「今そこにある危機」 防災対策へ点検・強化を

ライフステージ 舞夢 山本 幸郎

はいつ閉鎖されるかわからない状態。そんな不透明な状況の中で現地のみなさんは、自分でできることは何なのか、地域で何をしなければいいのかわからないのか、を前向きに考え行動されていました。

ある地域の区長さんは「今は『災間』の時期です。この間に①災害介護派遣チーム(DCAT)の創設と普及②地域共生社会の創造を行っている。次の災害が起こるまでの間にできる限りの準備をしていかなければならない」と強調されていました。「災間」とは、災害と災害の間、その間に、何を学び準備していくかが重要ということです。他人事ではなく、「今そこにある危機」である災害を再認識し、わが施設の防災対策の点検強化が必要であると感じさせられました。

## 5法人防災協定を締結

第26回5法人合同研修会が26年11月12日、鳥取県の社会福祉法人こうほうえんで行われましたが(4面に記事)、同研修会で「5法人防災協定(災害時における5法人相互の支援協定)」が締結されました。

同研修会には、こうほうえん、大阪自強館(大阪府)、クムレ(岡山県)、青山里会(三重県)と成光苑の5法人で構成、社会福祉改革への挑戦を目的に学び合う活動を行っています。今回、研修仲間だけにとどまらず、法人を超えてお互いを支え合い、地震や風水害など近年頻発している災害に備えるのがねらいです。この協定によって5法人はさらに結束を深め、災害が発生した際には一致団結し、相互支援を行うことになっています。

## ～爽り多い英会話研修を終えて～

## 生きた英語を学び、文化の違いに触れる オーストラリアでホームステイ

千里丘愛育園 前田 舞

成光苑から今回初めて、保育の海外研修が実施され、愛育園の英会話講師、ティム先生と保育士9名が参加、26年10月31日から11月6日まで7日間で、オーストラリアのケアンズ、メルボルンを訪問しホームステイしました。

愛育園では、幼児クラスの子どもたちが毎週、ティム先生を講師に招き、歌や踊りなど遊びを交えながら英語を学ぶ方、保育士自身も発音や会話の仕方などを正確に子どもたちに教えられるよう週1回、英会話を教えてもらっています。今回の海外研修は日常のナマの英語に触れる英会話研修がねらいです。

現地では食事や買い物で英会話の実践練習に役立ちました。ショッピングモールやスーパーなどで、自分たちで注文するのですが、正しい発音ができず通じなかったり、伝えたいことが伝わらないということもどかし

ホームステイ先では快く迎えてくださり、会話で理解できない時も、ジェスチャー、いわゆるボディランゲージを交え、ゆっくり話してもらえ、すっかり打ち解けることができました。日本では英語の文法が気になったり、自信がなかったため英語を使ったがらない場合も少なくないですが、周囲は英語ばかり、自分で話さなければ何とできないとなると、必死に単語を思い出さず、海外研修の効果かもしれせん。

オーストラリアでは若い頃から一人暮らしよりも、フラッ



トシエやルームシェアなどの生活スタイルで共同生活することが一般的に行われているようです。外国人学生を自宅に迎え、共同生活(ホームステイ)することが比較的気軽に行われているのもそんな土壌があるためでしょう。部屋では紙など使い捨てのものが少なく、ゴミの分別も細かくされ、オーストラリア人の環境に対する考え方は日本よりも意識が高いと感じました。

「生きた英語を学び、文化の違いに触れるなど爽り多い研修となりました。この経験を愛育園の子どもたちの保育にしっかりと生かしていきたいと思っています。」



### 第3回 3法人合同研修

成光苑 白鳩会 クムレ

#### 身体機能の発達を促す第二愛育園のリズムを紹介

社会福祉法人クムレ(岡山県)、白鳩会(東大阪市)と成光苑の愛育園七ヶ園の保育士が参加し、第3回3法人合同研修が26年10月23日、第二愛育園で行われました。

同研修ではまず、第二愛育園が保育の柱としているリズムや体育活動などを見学してもらいました。リズムでは、0歳児～5歳児が各年齢の発達に応じ、ピアノに合わせて楽しそうに動く姿を見てもらい、参加している先生方から拍手や歓声があがる場面もありました。

第二愛育園では毎日、リズムを行い、子どもたちの発達などを把握し、身体機能の

発達を促す取り組みを進めています。また、愛育園全体では年2回、職員のリズム研修を行い、保育士自身が正しく美しい動きができるよう研修をしています。

引き続き0歳児・1歳児・2歳児・幼児担当の4グループに分かれ、グループ討議(写真)。保育の様子やリズム見学をもとに、疑問や感想など交わしました。他園の保育の様子や悩み、改善すべき点などについても意見交換し、保育の方法は1つではないことを改めて学ぶ機会となりました。

3法人合同研修会は回を重ねるごとに保育への理解と知識が深まり、互いに刺激を与え合う研修となっています。

#### 「愛着を軸に考える」テーマに 障がい児研修に 幹部職員ら30名参加

保育部門の全体研修「障がい児研修」が26年12月2日、武庫川女子大学文学部心理社会福祉学科の倉石哲也教授を講師に迎え、成光苑研修センターで開かれました。「個別に配慮が必要な保護者の理解と対応～愛着を軸に考える～」がテーマで、各園から園長や主任を含むリーダー層の職員30名が参加しました。

障がい児(者)という課題をもとに考える場合、その内容は私たちにとって難解なものになりがちですが、倉石教授は“愛着=attachment”を基本に据え、日常の保育

現場での具体的事例を取り混ぜながら、わかりやすく解説されました。

倉石教授はさらに、一生懸命に保育に携わる職員の心情を推察しながらも、その中で子どもや保護者に対して、如何にぶれない支援の進め方はどうあるべきかを指摘。単に障がい児(者)に限った理解や対応ではなく、根底にはすべての子どもと、すべての保護者対応にも通ずると考えられる貴重な学びがあるように思われました。今後の保育にぜひ、生かしたいものです。

#### ありのままの自分を受け入れ、モチベーションを高めよ



「保育者対応や職員間の人間関係について」をテーマにコーチング研修が12月13日、正雀愛育園で行われました。講師は大阪信愛女学院短期大学の芝誠貴准教授で、49名が参加しました。

芝氏は、よりよいコミュニケーションを図るためには自己受容、つまりありのままの自分を受け入れることが大切で、それが他者受容にもつながると指摘。自分を大事に思い、同時に目標を持ちながらモチベーションを高めていくことで人との関わりもよくなっていくと強調されました。

職員それぞれがコミュニケーションを図るためのヒントを感じ取り、今後の保育に生かすことができるように思いました。

## 「何事も肯定思考で」と高岡理事長 先輩からは「困った時はいつでも相談を」

27年度

# 新規採用者内定式

高齢者

感、高齢者との期会の気持ちで世話をさせていた。内定者のみなさんは真剣に聴き入っていました。メッセージの最後に先輩が付け加えた「困った時はいつでも私のところに来てください」との言葉が内定者を支え、「安心して働ける成光苑を確信して貰ったのではないかと思います。」

内定者の自己紹介では、「自分を漢字・文字に表すと何か」の問いに、「笑」「愛」「純」「雀」「猫」などユニークで個性的な表現の自己PRもあり和やかな笑いを誘う場面もありました。

来年4月からみなさんが成光苑のスタッフとして活躍してくれることを願っています。



成光苑は、27年度新規採用者14名の内定式を昨年12月7日に行いました。内定者は社会人として第歩を踏み出す新卒がほとんどですが、なかには一般企業を経て福祉系資格を取得し「介護の仕事をするなら成光苑」という熱い想いを持った内定者もいます。

内定式では、高岡園長理事長が「何事も肯定思考で一緒に頑張っていきたい」と内定者を激励。各施設長からは挨拶のあと人材育成制度、入社までの流れなどを説明しました。

さらに3年目の先輩スタッフ2名から、実体験を交えたメッセージが送られました。高齢のご入居者と接する際の複雑な心境、その経験を通して成長する実感、高齢者との期会の気持ちで世話をさせていた。内定者のみなさんは真剣に聴き入っていました。

### ～先輩からのメッセージ～

様々な経験を通し、一人ひとりの子どもの世界を広げたい



一津屋愛育園 黒田 悟史 平成25年度入社

私が成光苑で働こうと決めた理由は、身近に愛育園に通う子どもがいて、その子どもから多くの話を聞くことができたからです。

一番驚いたのは漢字あそびでした。「今日はこんな漢字を覚えたよ」と漢字あそびで使っている絵本を取り出し、それぞれの漢字を言い当てていました。

また、サッカーやスイミングなど専門コーチによる指導が行われており、「たくさんゴール入れたよ」などうれしそうに聞かせてくれました。

成光苑では、子どもたちにいろんな体験ができるよう多様な保育活動が展開されています。子ども一人ひとりに好きなものが見つかるよう願いながら、そのことが達成感や自信につながるよう、日々の保育を大事にしていきたいと思っています。

自分自身をステップアップできる可能性を感じた!



サンヒルズ紫雲館短期入所ケアワーカー 飯尾 実優 平成26年度入社

私は田舎で生まれ育ち、普段から自分の祖父母だけでなく、近隣のおじいさん、おばあさんとの交流が多かった。その関わりの中で、「今までお世話になったみなさんに何かできないか」「いつまでも笑顔を見せていて欲しい」と思ったのが介護の仕事を選んだきっかけです。

介護の専門学校へ進学し、成光苑と出会いました。新人職員の育成・チューター制度が充実していることを知り、ここで働きたいと思いました。何より魅力的だったのが、様々な研修に参加し、チャレンジできる環境があり、自分自身をステップアップする可能性を感じたことでした。

仕事のなかで「今のままでいいのかわからない」など疑問に思う時もありますが、ご利用者の「笑顔を見ること」「ありがとう、のひと言を聞くこと」が自分の活力になっています。

## 成光苑の魅力を果敢に発信

幅広い「人材確保プロジェクト」を展開へ

成光苑では、高齢者のお世話をする介護人材、地域の子育てを支援する保育人材を確保することを主な目的とし「人材確保プロジェクト」が経年的に活動しています。しかし、めまぐるしい社会情勢の変化、昨今では景気回復傾向による一般企業の求人増などの影響も受け、成光苑の人材確保も一層厳しい状況になっています。

その中で「福祉の仕事を通じて人の役に立ちたい」という人と出会い、その人を確実に採用に結び付けることがプロジェクトの大きな使命のひとつです。

これまで、法人本部や各施設の幹部

層が中心となり採用活動を行ってきましたが、福祉は100%人と関わる仕事ということもあり、現場スタッフからの意見や次世代の福祉を担う実習生や福祉養成校からも情報を得ながら、さらに積極的なアプローチを展開しています。

スタッフの個性や事業所のある各エリアの地域性はそれぞれ異なりますが、多くの皆様から「成光苑がここであってよかった」と思われる存在になることが“最も大事にしたい価値観”であり“想い”です。

今後も地域の皆様と共に歩んでいくためにも、成光苑の魅力を果敢に発信していきたいと思っています。

## 社会福祉の原点を再確認するよい機会に

第26回5法人合同研修会が26年11月12、13日の2日間にわたり、社会福祉法人こうほうえん主催で開催され、こうほうえん、大阪自強館、クムレ、青山里会と成光苑の各法人の代表はじめ約100名が参加しました。

研修会ではまず、各法人の代表者から、地域に根差した事業展開や取り組み

優秀受賞者として～「JQA(日本経営品質賞)の審査を受けて」「医科歯科連携実践で見えてきたその重要性 STの立場から」などをテーマに、端末機器を活用したデータ分析からケア改善の研究、社会福祉法人初の経営品質賞受賞までの経緯など先駆的な試みの報告が行われました。

ますます厳しくなると想定される社会福祉制度ですが、私たち社会福祉法人に求められていること、言い換えると社会福祉の原点を改めて考えるよい機会となりました。

今後もお互いが刺激しあい、協力しあい、切磋琢磨することで成光苑がめざす「和顔愛語」を体現していければと思っています。

第26回5法人合同研修会に100人参加

## 介護技術を学び競い合う オールジャパンケアコンテスト

第5回オールジャパンケアコンテスト(AJCC、社会福祉法人こうほうえん主催)が昨年10月17、18日の両日、米子コンベンションセンターで開催され、成光苑から6名が出場しました。

同コンテストは、日頃の介護技術を披露し、介護とは何かを考え、学び合い、介護を支える土壌を育むのが目的で、全国から介護従事者120名が参加。「認知症」「食事」「入浴」「排泄」など6分野で実技を披露。

今回は残念ながら受賞者はありませんでしたが、「参加することで自分の強い所、弱い所がよくわかった。この経験を職場の仲間と共有し、よりよいケアを目指したい」と決意を新たにしています。

# 地域福祉フェア開く

介護関連や健康食品の展示・講習 高槻けやきの郷

高槻けやきの郷では26年10月19日、地域のみなさんを招いて「地域福祉フェア」を開催、けやきの郷の職員や各メーカーの協力で、介護関連・健康食品の展示・講習会を行いました。

今回のフェアは地域の方に、介護についての知識や「高槻けやきの郷」を知ってもらうための初めての試みです。

「介護」とひとくちにいても様々なサービスがあります。最初は何をしたいのか悩みもあり、当日、地域のみなさんに来てもらえるのか、と緊張しましたが、開催の時間になると多くの方が参加され、「今後の自分のためにいい勉強になりました」とうれしい言葉が寄せられました。

「高槻けやきの郷」はこれからも地域のみなさんの頼りになる存在として、愛される施設を目指していきたいと思っています。

## 地域交流スペースで洋品販売会

吹田竜ヶ池ホーム

衣類や靴など多彩な品揃え



吹田竜ヶ池ホームの地域交流スペースで昨年12月13日、洋品販売会が行われました。

徳島県の衣類の販売業者(株式会社行商)が開いてくれたもので、なかなか買えない物に外出できないご利用者に利用してもらうのが目的です。衣類だけでなく、ほかにもクッションや靴、靴、帽子など多彩な品揃え。色とりどりの洋服選びに悩まれるご利用者も、結構楽しそうでした。

高齢者向け優良賃貸住宅(竜ヶ池ハウス)にお住いの方々にもたいへん好評でした。

今回は暖かくなる頃(衣替えの季節)に開催予定です。

## 《サポートハウスいわと開設から1年半》

現在入居者 **49名** 環境にもすっかりなじむ

「サポートハウスいわと」が開設されて1年半、ご利用者はサポートハウスの環境にもすっかりなじまれ、新しい人間関係の構築も含め、その人らしい生活を送ってもらえるようになりました。

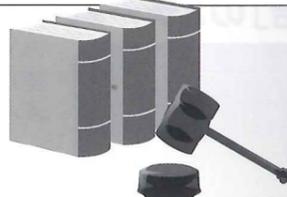
サポートハウスは25年7月に開設されましたが、現在49名の方が入居されています。開設当初は、岩戸ホームの管理棟が未建設のままで、食堂ホールのある特養棟への仮設の渡り廊下を移動しデイサービスを利用してもらっていました。管理棟が開設されたからは特養棟への移動もスムーズに行えるようになり、併設されている喫茶「ひだまり」を利用されるご利用者も見受けられます。

管理棟にある暖炉には火が入られ、その前のフロアでは毎朝ご利用者とサポートハウス職員との朝礼と体操を実施、ご利用者の元気の源となっています。



あったか〜い憩いの場に

「トシとつたらこんなことでも困る!!」



## 法律を身近にオープンデイ講演会

ライブ・ステージ 舞夢

ライブ・ステージ 舞夢は26年11月1日、行政書士の桜井寛氏を講師に迎え、オープンデイ講演会を開催しました。テーマは「年をとったら、こんなことでも困ってしまうんです」。

桜井氏はまず、民法における成年後見制度の説明をされたあと、後見人としての活動もされている先生の体験談を話されました。

聴講された方は「法律なので難しい話だと思っていたが、例をあげてわかりやすく説明してもらい、本当によかった」「具体例を入れた話でたいへん参考になった。頭では知っていたが、身近にお世話をされている先生の実例を聞かせていただき心強く安心しました」などの声が寄せられました。

私たちを守ってくれる法律を身近なものに感じられる機会となりました。



旧軽費老人ホームの環境から、現在のサポートハウスに移られた当初の戸惑いも今ではほとんど感じられません。今後もサポートハウスで、その人らしい生活を送ってもらえるよう施設をあげて努めていきたいと思っています。

## 岩戸ホームの暖炉に火が入る!

26年11月11日、サポートハウスいわとのご利用者や職員が見守る中、岩戸ホームの暖炉に火が入りました。その瞬間、ご利用者から大きな拍手が起き、今シーズンの暖炉の活躍に期待が寄せられました。

暖炉は早朝に宿直者が火入れをし、サポートハウスのご利用者が暖炉前に集まるころには、周辺はあったか〜い憩いの場となっています。

特養ご利用者の余暇活動として11月19日には、暖炉を使って焼き芋大会を実施しました。暖炉の力強い火で焼かれた焼き芋はホッカホカ、格別の味だったようです。さらに暖炉でピザづくりを計画したいと思っています。

# 歳末助け合いイベントに参加

## 太鼓やシンバルの演奏・演技を披露 千里丘愛育園すみれぐみ(5歳児)

摂津市コミュニティープラザで昨年12月1日、地域の老人会主催の歳末助け合いイベントが行われ、千里丘愛育園すみれぐみ(5歳児)の子どもたちが鼓隊の演奏・演技を披露しました。

子どもたちは、太鼓やシンバルなどの楽器で「虹」「宙船」の曲を演奏したほか、指揮者の演技やフープバトンを使ってバトンを回したり、ポンポンを使いみんなで力を合わせて演技をしました。

初めての舞台で、いつもと違う環境ということもあり、幕が開くと同時に子どもたちの表情は緊張に包まれましたが、終了すると、おじいちゃん、おばあちゃんから暖かい拍手をもらい、どの子どもとても嬉しそうな顔に。大きな自信になったことでしょう。



第十六回摂津小学校区福祉歳末事業

## 幼小連携 小路小学校から招待

東生野保育所

東生野保育所近隣にある市立小路小学校では毎年「民族学級・国際理解の学習」の発表会が行われていますが、今年度は初めて幼小連携として小学校から同保育所に招待があり、5歳児の子どもたちが見学させてもらいました。

同保育所では多国籍の家庭も多く、多文化を知る機会として貴重な経験となりました。

発表会が開かれたのは26年11月29日。その数日前には民族学級の先生(ソンセンニン)が民族衣装(チマチョゴリ)を着て来所され、子どもたちは民族衣装を着せてもらったり、韓国の手遊び・じゃんけんを教してもらったり。同小講堂での発表会当日には、教えてもらった手遊びを一緒にすることができ楽しく参加できました。

民族衣装を楽しむなど国際理解を深める



## “たこるくん”もやってきたよ!

第二愛育園



第二愛育園ときりん夜間愛育園に昨年11月26日、テレビ大阪の植草結樹アナウンサーと鈴木理加アナウンサーが絵本の読み聞かせに来園されました。「せんとくかあちゃん」では、迫力のあるアナウンサーの声に子どもたちはびびりするやら、夢中になるやら、お話にくぎづけでした。もう一つの「あたかいかおひり」のお話では、主人公のキャラクター「たこるくん」もやってきて、子どもたちは大喜びでした。最後にみんなで一緒に記念写真を撮り、楽しい時間を過ごしました。

くるみ愛育園

## 名を改め「ふれあいっ子まつり」 “宝つり”などゲームや飲食コーナーも

くるみ愛育園では毎年行っている「バザー」を、今年は地域との「ふれあい」をテーマに「くるみふれあいっ子まつり」と名を改め開催しました。

例年のゲームに手作りの“ボール入れ”“宝つり”“ボーリング”を加え、ゲームの種類を6種類に増やしました。

1番人気は“宝つり”。箱の中に入ら下がっている宝物の紐を引っ張りあげるのですが、なかなかお目当ての宝物が取れず、何回もチャレンジする子、ボール入れでは、人気のアンパンマンのキャラクターの絵が描かれていることもあり、小さい子も「バイキンマン」と声を上げながら、穴に入れようがんばる姿が見られました。

また、飲食コーナーでは“うどん”“コロッケ”“おでん”など、「おいしいなあ」と好評。あいにくの雨でしたが、地域の子どもたちと園児が、いろんなゲームを楽しみながら、ふれあう場になったのではないかと思います。